

市長二期目就任のあいさつ

本年4月13日より、再度、市政のかじ取りをさせていただくことになり、責任の重さを改めて痛感しているところであります。これまでの経験を生かして、市政のさらなる発展のため、市民福祉の向上のため、引き続き全力を注いで大府を舞台に新たな令和の時代を切り拓いてまいりたいと覚悟です。

大府市は昭和45年9月1日に市制施行し、本年は市制施行から50周年の年となります。市制施行時には約4万8000人であった人口は、現在では9万2000人を超えました。今日の大府市の礎である先人が築き上げてきた「遺産」、すなわち「レガシー」を承継し、次の50年に向けた新たな「レガシー」を創造することを目指し、魅力や活力があふれる持続可能なまちづくりのスタートの年に本年を位置付けております。

あわせて、まちづくりの指針となる2030年を目標年次とした「第6次大府市総合計画」が4月からスタートいたしました。この計画では、市制施行時から掲げてきたまちづくりの基本理念である「健康都市」を継承し、目指すべき将来都市像を「いつまでも住み続けたい サステイナブル健康都市おおぶ」と定めています。大府市にはまだまだ伸びしろがあります。市の持つポテンシャルを最大限生かし、未来志向の持続可能なまちづくりを進め、誰もが住みたい、住み続けたいと思える、「選ばれる」10万人都市を目指していきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症が全国で拡大傾向にあり、日常生活や経済活動に大きな影響が出ております。市内小中学校の臨時休校、イベントの中止など、市民の皆さんにはご不便をおかけしているところではございますが、引き続きまん延防止のため、最悪の事態を想定し、空振りを恐れず、必要な対策をスピード感を持って実施してまいりたいと思っております。

市民、地域、企業、NPOの皆さんと協働で、「日本一元気な健康都市」の実現に向け、一所懸命取り組んでまいりますので、今後とも皆さんのご理解とご協力をよろしく願います。



大府市長
岡村 秀人

The Kevin Report

Vol. 1

日本では当たり前かもしれませんが…。

皆さん、こんにちは。いつの間にか、私が大府に来てから2カ月がたちました。暖かくなり、春ですね。さて、今回私が取り上げたいトピックはリサイクルショップです。日本では日常的なものかもしれませんが、私にとって、こういう店は日本の一つの逸品として考えています。

日本のリサイクルショップは、服、家電・釣り道具・ゲーム・漫画など何でも買えます。しかし、カナダのリサイクルショップではほぼ古着しか扱っていません。もし中古の家具や電化製品を買う場合、インターネットの掲示板で取引するしかありません。最近でこそ古着がはやっているらしいですが、一般の人はあまり中古の商品は買いません。

初めは私も中古の商品を買うことに少し抵抗がありましたが、今回、大府での生活に向け、家具・冷蔵庫・炊飯器・ベッドなどさまざまな商品をリサイクルショップで買いました。節約できるし、世界の資源を守ることもつながりますね。



▲市内のリサイクルショップ

外国の友だちが日本に来たときには、よくリサイクルショップに連れていきます。みんないろんな商品が並んでいることにびっくりしたり、ファミコンなどの昔のゲームを懐かしんだりします。もし皆さんも外国から来る人を案内する機会があれば、日本の素晴らしいリサイクルショップを案内してみたいかがでしょうか？

大府市国際交流員
ケビン・ハンフリーズ

